

スクラム



平和学習（映画）の感想文

自分が想像していた戦争ばかりの日常ではなくて、ほのぼののしているところもあって安心した。けど原爆が落ちた広島のシーンで、少女のお母さんにガラスがささって力尽きて座って、そのまま亡くなったのに、少女が助けようとしていたのが辛かった。飛行機が飛んでいるのに微動だにしないのも、1日中飛行機が飛んだり爆弾が落とされていて、それが当たり前になっていることに驚いた。

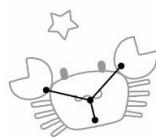
戦争中の生活は、お金もめっちゃあるわけじゃないし、ご飯もめっちゃ食べれるわけじゃないから、この時の人たちは大変だったんだなあと思った。時限爆弾ではるみちゃんが亡くなつて、すずさんの手が失われて、なんで戦争なんかやるねんと思った。理由があるから戦争が起ころんだと思うけど、やっぱり戦争は起らんかったらよかったです、これからも起こらないでほしい。今戦争が起こっているところは、早く戦争が終わって、一生戦争なんか起こってほしくないと思った。

僕たちが生きている今の時代は、家族・友人が死んでしまった辛さはあるけど、いつ死ぬかわからない、趣味ができない、食料が足りないといったことは、日本の中ではほとんどありません。でもその環境に甘えてはいけないなと思いました。世界の中には、食料が足りない国や、戦争をしていていつ死ぬか分からぬ国もあります。直接その人を助けることはできないかもしれません、何かできることを考えたいなと思いました。昔命をかけて戦った人たちがいなければ、戦争はまだ続いているかもしれない、祝うべきものではないと思いますが感謝はできるなと思ったので、昔起きててしまったことを忘れないようにしたいです。

すずさんと私たちの暮らして、鉛筆を削る時、すずさんたちはナイフを使って削っていたことに気づきました。私たちは鉛筆削りを使っているので驚きました。ゴミもすずさんたちの暮らしては、床に穴が開いている所に捨てていたので、それも驚きました。

すずさんが結婚した所のお姉さんが、最後はいい人になってよかったです。実はすずさんと周作さんの出会いが小さい時で、素敵だった。昨日お母さんに「この世界の片隅に」っていう映画を観たと伝えると、母は実写版を観たことがあると言っていました。

ふみづき
文月



7月

かに座

発行日: 7月11日

発行者: 2年学年主任 堀